

授業で使える当館所蔵地図

No.79 『資料名』 作成年 寸法 作者

地図1：『岐阜（内題:世界一景岐阜長良川鵜飼鳥瞰図』 1931（昭和6）年 18×58cm
吉田初三郎（著）岐阜市役所（発行）

地図2：『木曾川下り恵那峡の舟遊』 不明 20×60cm 不明



【解説】

鵜飼、金華山、桜並木などの描写から、当時の観覧名所を記した鳥瞰図であると考えられる。その中には現在もあてはまる多くの地名や施設名が残っており（例えば金華山・岐阜公園・名和昆虫所・伊奈波神社・柳ヶ瀬など）、現在と見比べることで、地域の発展・変化を読み取ることができる。また、現在とは所在地が異なる施設等もみられ、それらを調査することで、そこから多くの気づきを得ることができる。特に公の機関などは、組織の改編や所在地の移動などにより、現在とは異なる姿を地図上で示すことが多い。

★1 岐阜商業学校

現在の長良高等学校がある場所に、「岐阜商業学校」が表記されている。調べてみると、岐阜商業学校は現在の長良高等学校及び県立岐阜商業高等学校の前身であることがわかる。両高校の沿革を調べてみると、岐阜商業学校は戦後に女子商業学校と統合し、市立商業高等学校となった。さらに総合制高等教育機関設立の流れから、1949年に長良高等学校普通科及び商業科となる。その後1951年に商業科が現在の県立岐阜商業高等学校として独立し、かつて女子商業学校があった則武の地に移転し現在に至っている。

★2 師範学校・市立薬学専門学校

現在の長良公園がある場所に、「師範学校」が表記されている。調べてみると、師範学校は現在の岐阜大学教育学部の前身であることがわかる。1877年に司町に設置、1901年に加納に移転した師範学校は、1936年に長良に移転、さらに1983年に点在していた岐阜大学の学部を統合し、岐阜市柳戸に総移転したことがわかる。

「市立薬学専門学校」は現在の岐阜市立岐阜薬科大学であると推測できる。同大学ホームページからは、岐阜市九重町に全国初の市立薬科専門学校として設立された同学は、昭和40年に現在の三田洞に移転したことがわかる。なお、現在は岐阜大学医学部の敷地内に本部キャンパスとして4年次～大学院の機能を移転している。医薬学の連携強化が考えられる。

★3 県庁

市役所の隣に県庁があったことがわかる。ここ（「司町」）には現在も旧県庁の建物跡が残っている。岐阜県のホームページからは、1871年～1874年まで笠松町にあった岐阜県庁が移転して、1874年～1966年までこの司町にあったことがわかる。現存する建物は1924年に完成した3代目の県庁舎であり、1966年に岐阜市藪田南へ移転した。現在は、2022年の新庁舎完成に向けて工事が進んでいる。

【用語について】

- ・師範学校…初等・中等学校の教員を養成する目的の学校であり、戦前の日本に存在していた。多くは現在の国立大学教育学部に相当する。
- ・専門学校（旧制）…第二次世界大戦前まで、専門学校令に基づいて専門教育を行っていた高等教育機関。現在の単科大学に近いものとされ、多くは現在大学の前身でもある。

【利用の例】

- 日本史のテーマ史において、歴史的転換期や時代の特徴、地域性などと結びつけて教材として活用できる。
 - 教育制度の変遷（戦前・戦後の変化…例：1872年学制制定後、1918年原敬内閣高等学校増設期前後、第二次大戦期、米軍占領期前後、高度経済成長期前後、少子化前後など）
 - 地方行政制度の確立
- 総合探究活動において、現地調査や沿革等の資料を組み合わせ、地域の過去と現在とを対比しながら調べ、地域の特徴や歴史の変遷の理解を深め、それを課題解決等に活かすことができる。
 - 公の施設は地図上にてランドマークとして使用されるため、古地図等を見比べると、移転の理由、移転前後の地域の変化や特色、発展の差が読み取ることができる。
 - 現地には〇〇跡といった記念碑が設置されていることも多く、（例：長良公園南には“師魂”という師範学校跡を記念した石碑があった。）そうした史跡を活用すると、歴史を肌で感じることができる。

【追加】

下記の地図は中津恵那峡の会が作成した「(外) 木曾川下り恵那峡舟遊」という古地図であり、発行年は不明であるが、この地図の中にも、[★1 女学校] =現在の中津高等学校の場所に位置する。[★2 商業学校] =現在の中津商業であると思われるが立地が大きく異なる。[★3 中津川駅から付知方面に向かって描かれた線路] =廃線となった恵那北鉄道…など、恵那峡の魅力を記した地図の中に、当時の町の特徴を読み取ることができる。

